

独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 嘉藤 一博



大山山頂からのご来光

大山山頂からは、晴天時には、南は四国の石鎚山、北は隠岐島も見え、頂上付近の日の出の直後には、雄大な「かげ大山」、自分の影を中心に虹ができる「ブロッケンの怪」といった現象も見られ、いかに大山が高く、神秘的な山であるかを確認できます。

もくじ

平成27年「新年のご挨拶」	2	☆メリークリスマス☆	11
教育研修部から その一歩が自立への道	3	指導室行事（1階病棟 院内行事「忘年会」・12月18日に、2階・3階病棟クリスマス会を行いました）	11
マスコットキャラクター表彰式について	4	電動車椅子サッカーチーム「松江コンビック」が松江農林高校の収穫祭に参加しました	12
「第5回松江呼吸器セミナー」を開催して	4	国立病院総合医学会「ベスト講演賞」をいただきました	13
いつでも、どこでも、だれでもメディエーション	5	第68回 国立病院総合医学会での論文発表を振り返って	13
QC活動奨励表彰 特別優秀賞について	6	各診療科・各部門職場紹介	13
欧州呼吸器学会国際学術集会2014に参加して	7	しじみ会（十月中秋号 十一月晩秋号 十二月冬号）	14
松江医療センターふれあいまつりを開催して（健康フェスタ部門・きらめき祭部門・市民公開講座部門）	8	開業医紹介コーナー	15
第8回地域医療連携交流会を行いました	9	地域連携室だより	16~17
市立第四中学校職場体験を終えて	10	外来診療表	18
健幸スマイル教室好評開催中です	10		

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



平成27年「新年のご挨拶」

"新しい革袋には新しい酒を盛れ"

院 長 徳 島 武

新年あけましておめでとうございます。皆様にはそれぞれの希望や意欲を心に秘めて、新しい年をお迎えになったことと思います。長い年末・年始の休暇中にもかかわらず、勤務に従事された職員の方々は大変ご苦労様でした。今年も皆さんの益々のご健勝をお祈りしたいと思います

さて昨年は日本の各地で予想外の豪雨災害、御嶽山の噴火や地震も多発し、多くの人々が被害に遭われました。今年はどうなることでしょうか？病院や我々職員も日頃から、異常気象や自然災害を想定した覚悟や訓練が必要ではないかと考えます。一方で明るいニュースとしては、ノーベル物理学賞に日本から3人の科学者が受賞されました。iPS細胞から作った網膜の細胞を、目の難病である加齢黄斑変性の患者さんに移植した世界初の手術が行われ、今後多くの臓器への応用が期待されています。またテニスの錦織圭選手の大活躍は地元松江の人達に元気を与えてくれました。今年は是非ともメジャー大会で優勝して欲しいと応援しています。

また年末のあわただしい中での大義なき衆院解散・総選挙が行われました。果たして約700億円もの経費がかかる総選挙を行う意味はあったのでしょうか。また消費税率10%引き上げは1年半先延ばしとなりました。増税分を社会保障費に充てると確約されていますが、今後経済が悪化した中で増税を強行すれば、税収は減り、社会保障財源が確保できない状況も起こり得ます。そうなれば2025年に向けた社会保障の充実、絵に描いた餅になりかねないと思われまます。安倍政権の真価が問われます。しっかりと日本の将来を見据えた政策を早く国民に示して十分な論議をして欲しいものです。

ところで今年の干支は「乙未」（きのとひつじ）です。きのととは「乙」という字で、「地上に芽を出した草木が抵抗でしなる形」だそうです。またひつじとは「未」という字で、「木の枝が茂る様子」を表しているそうです。自分流に解釈すれば、「きのとひつじ」の年というのは、木々は成長する力を蓄えているが、枝葉が茂りすぎると逆に日差しが遮られる。枝葉末節

の盛衰に目を奪われて、肝心の幹や根っこを傷めては元も子もない。今年は根元をしっかりと見定めて、新しい医療センターの礎を築く年にしたいと思います。

当院は昨年から今年にかけて大きな転換期を迎えております。当院が統合開設したのが昭和46年ですから、実に44年ぶりの建替工事でした。昨年2月から新外来管理診療棟と電子カルテの運用を開始し、高度医療機器も導入・更新して、今年3月には駐車場整備等のすべての工事が完了する予定です。そして従来の旧療養所から、新たな「松江医療センター」に生まれ変わった姿を市民の皆さんにお見せできます。

しかし、新病院完成（建物整備）はあくまでも病院の目的ではなく、手段（ツール）にすぎません。当然のことですが、病院の目的は、

1. 患者さんに、より高度で良質な医療・看護を提供すること、
2. 良き医療人の人材育成に努めること、
3. 院内外に多くの有意義な情報発信をすること、であります。

“新しい革袋には新しい酒を盛れ”という聖書の格言があります。新しい革袋としての建物整備はできたので、これからは気持ちも一新して中身の充実が重要です。そしてそれには皆さんの自覚と連帯意識の更なる向上が必要です。

そこで私は病院機能評価を受審することに決めました。受審することにより、職員の皆さんの自覚と連帯感がより一層高まることを期待します。そして当院の地域医療における位置づけを客観的に理解することにより、診療機能についても改善すべき事項が具体的に把握されます。また当院に対する地域の皆さんの信頼を高めることができ、それは経営の効率化にもつながると考えます。病院機能評価は本年4月からは第三世代の3rdG:Ver. 1.1が運用されます。これは病院の特性に応じた機能種別の選択ができますが、さらなる医療の質の向上に向けてハードルが高くなっており、認定への道は厳しいと予想されます。それこそ職員が一丸となってこの目標達成に向って頑張りましょう！

ところで、昨年の漢字は、税金の「税」という字でした。4月に行われた、17年ぶりの消費税増税と診療報酬改定は、医療機関にとっては極めて厳しいものであり、当院にとっても例外ではありませんでした。とくに建物整備関係での費用もかさみ、昨年始めて機構病院内のリスタートプランの病院になりました。しかし良質な医療を提供する上では、設備投資や人件費の確保はどうしても必要です。「私たちは、まごころ

と思いをもち、良質な医療を提供します」という当院の理念に基づき、患者確保に向けて、病診連携をはじめとした取り組みを一層強化することが、必ずや結果として経営状況の好転に結びつくものと考えています。

どうか皆様には今後一層のご支援ご尽力を宜しくお願い申し上げます。私の年頭の挨拶と致します。本年もどうかよろしくお願い致します。

教育研修部から

その一步が自立への道

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

皆様あけましておめでとうございます！本年もよろしくお祈り致します！2014年は教育研修部にとって重要な年でした。12月6日には第5回松江呼吸器セミナーを新築した外来管理診療棟の大会議室で開催し、院内外から141名の参加をいただきました。また院内認定部門の各教育課程のメンバーがそれぞれグループとしての活動の開始を始め、各人が持つ専門性を活かせる状況ができあがりつつあります。2015年も教育研修部が皆様のお役にたてるよう努力して参ります。

さて、この原稿を書いているのは2014年12月初旬。出張で岡山に向かう「特急やくも」車内です。山間部をゆったり走るこの特急は同じような景色が流れていく、ともすれば退屈な時間ですが、ぼんやりと考えを巡らせるには最高の時間です。いつもぼんやりと名も知らない川の流れをみています。こっち向いて流れているかと思っているといつの間にか反対向いて流れている。どこかのトンネル通過の際に“分水嶺”も越えたことがわかります。そういえば数年前まで分水嶺の車内アナウンスがあったのに最近はなくなりました。世の中はぼんやりしていれば勝手に流れて行くし、気がつけば状況が変わってる。でもよくみていけばどこかで流れが変わるのがわかります。でも変わるのを待つのではなく、自ら変えようとするのが大事だと思うのです。変えられるのは自分自身しかいないし、流れに逆らっても前に進むかどうかを決めるのは自分。そうしないと決めるのも自分。一步踏み出せば、どちらにせよ前に行ける、そう思うのです。

私は院内の呼吸療法サポートチーム（RST）でも仕事をしていますが、こうしたチーム医療を確立させる

のに重要なのはコミュニケーションであることは言うまでもありません。しかし、それ以前にそれぞれが自立することが最も重要だと思っています。具体的にはその道のプロフェッショナルとして各々が患者さんにとっての最善の道を提案し、実行する、ということです。お互いがお互いをリスペクトすること。そこに教育が生まれ共に成長できる。しかし、アドラー心理学的に言うとそこに自己承認欲求はお互いに不要です。他者に認められようと思わなくていいし、必要以上に他者を評価する必要もありません。自分がその状況において正しく貢献できているという感覚と実際に貢献しているという事実があればそれで十分なのです。自己承認欲求を捨てれば真の意味で自立できると思いますが、多分孤独感との戦いになるでしょう。なかなか難しいのですが、それを踏み出せるのが真の勇気だと思います。

そんなことを考えていると、とある大好きな曲を思い出しました。

「Nobody's a picture perfect

But we're worth it

You know that we're worth it

Will you love me?

Even with my dark side?

Like a diamond from black dust…

(非の打ち所がない人間なんていない

だけど私達は価値を見出せるって

それでも私達には価値があるって

貴方は私を愛してくれる？

醜い私も全て包み込んでくれるの？

真っ黒な石の中に埋もれるダイヤモンドみたいに…」
 自立すれば、お互いにダイヤモンドもみつかるでしょう。
 そして真の意味でリスペクトが生まれるでしょう。
 一歩踏み出せるかどうか？その勇気を持てるかどうか？
 これがそれぞれにとっての“分水嶺”になるのだろう
 と考えています。

2015年度の教育研修部運営の計画ではカリキュラム
 の中にネット配信による教育システムを導入し、カリ
 キュラム全体の見直しを行う予定としています。皆さ
 んが一歩踏み出す勇気を持っていただくことで、さら
 に前に行ける。そのお手伝いを今年も教育研修部が担っ
 ていきます。皆さん、ともに頑張りまっしょい！

マスコットキャラクター表彰式について

管理課長 黒田 裕 介

当院では、昨年6月から8月にかけて、地域の皆様に親しみを
 持って頂くことを目的に、病院キャラクターの募集を行い、たく
 さんの方々からご応募を頂きました。

ご応募いただいた作品を選定審査委員会で審査した結果、最優
 秀賞には西坂久己さんよりご応募頂きました「松丸くん」が選定
 されました。昨年10月30日にマスコットキャラクター表彰式が行
 われ、「松丸くん」生みの親の西坂さんには、徳島院長より表彰状
 と記念品が贈られました。「松丸くん」は今後、当院の様々なイベ
 ントにて末永く活躍いたします。皆さんよろしくお願いたします。また、ご応募頂きました
 皆様、ありがとうございました。



紙面をお借りし、松江医療センターマスコットキャラクターに
 ついてご紹介させていただきます。

- 名前：松丸くん
- 住まい：松江医療センターをねぐらにしている
- 概要：真っ白な熊でいつも病院を見守っている。
 病院の白衣と松江城の城をかけてシロクマを
 モチーフとしたキャラクター。
 オレンジ色の陣羽織は宍道湖の夕日をイメージ
 したものでシジミが泳ぎ回っているのがポイント。
- 性格：優しくてきれい好き
- 趣味：掃除



「第5回松江呼吸器セミナー」を開催して

教育担当看護師長 山本 純子

平成26年12月6日（土）に、松江医療センターにて第5回松江呼吸器セミナーを開催いたしました。
 当院は、呼吸器病センターとしての専門性を生かし、医療従事者の方々を対象とした松江呼吸器セミナー
 を、平成22年から開催しています。毎年、呼吸器疾患の問題における対策を取り上げてきました。平成25年
 より、3学会合同呼吸療法認定士の認定更新に必要な点数取得可能な講習会として認められました。今年は
 新外来管理棟が完成した松江医療センターを会場とし、150名を超える参加申し込みがありましたが、あい
 にくの寒波によりキャンセルがあり、当日は141名の参加となりました。

今回は「ガイドラインも越えていくNPPVマスターへの道」というテーマで下記のように、当院の4名の方々に、それぞれの立場から実際に臨床で関わっているNPPVの管理について講演していただきました。

- ①「機器・インターフェイスがもたらしたNPPVの進化」 主任臨床工学技士 笠置 龍司
- ②「NPPV×ナーシング ～マスクを制する者はNPPVを制す!?～」
慢性呼吸器疾患看護認定看護師・呼吸療法認定士 勝田 聖子
- ③「NPPV×リハビリテーション ～早期リハビリの可能性を求めて～」
理学療法士・呼吸療法認定士 加藤 保
- ④「NPPVガイドライン改訂のポイントとChallenging NPPV」
呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

講演会における参加者の質問から、NPPVの管理に対する関心の高さがうかがえました。これからも、地域の医療機関や介護・福祉施設との連携を深め、呼吸器疾患患者さんのQOL向上に役立てることを願っております。

ご講演いただきました4名の演者の皆様、準備や運営にご協力いただきました職員の皆様、本当にありがとうございました。



いつでも、どこでも、だれでもメディエーション

～安全・安心な医療をつくる対話モデル～

医療安全管理係長 松岡 芳江

島根県立中央病院で開催された、医療コンクリフトマネジメントセミナーに参加しました。

皆さんは「大関 名古屋で優勝」と流れるニュースを見て何を思い浮かべますか？人は文面から解釈をする際に、自分の経験や情報で行間を読み解釈しています。だから、相撲を知らない人は、「大関さんが名古屋の大会で優勝した」と解釈します。相撲を知っているかないかで大きく解釈が違うわけです。では、医療の現場ではどうでしょうか？患者さんと医療者は、経験が異なっているので様々な解釈が生まれますが、この解釈の溝を情報交換で埋めていかないと認知的な対立に発展してしまいます。初めは小さな対立であっても積み重なるとコップの水があふれるように、怒りやクレームとなって感情が噴き出してしまいます。

医療メディエーションとは、患者側と医療者側の対

話を促進することをおして情報共有を進め、認知齟齬の予防・調整を支援する関係調整モデルです。対立する当事者に寄り添いながら対話の場を作り、お互いが向き合い情報交換ができるように対話を支援する、中立的な仲介者が院内医療メディエーターです。患者サポート体制充実加算に必要な条件にもなっています。

苦情やクレームは、当院を信頼して診療を受ける方々の期待や要望が裏切られたと感じる結果から生じています。患者相談窓口もありますし、感情を抑えきれない様子の患者さんを見かけた時は、いつでも連絡いただければ、お話を伺いに参ります。

いつでも、どこでも、だれでもメディエーションマインド、対話から医療安全へ、信頼により安全を患者さんの安心へとつなげられる組織を目指しましょう。

QC活動奨励表彰 特別優秀賞について

業績評価係長 山本 隆弘

企画課一丸となって取り組んだ「請求物品状況定期便」をQC活動奨励表彰に応募したところ特別優秀賞をいただくことになり、去る平成26年10月31日に国立病院機構本部でおこなわれた表彰式に、嘉数企画課長とともに出席してきました。

機構本部役員にお会いするのは初めてだったため、緊張のあまり大きな失敗をしないかと心配していましたが、無事に表彰式と記念撮影を終えて帰ってきました。



表彰式記念撮影



表彰式後に行われた懇話会

さて、今回受賞した「請求物品状況定期便」をスタートするきっかけとなったのは「事務職員に対する職員満足アンケート」でした。アンケートの結果、「物品請求したものが届かず確認したら把握されていなかった。」「請求していたものが忘れられて1ヶ月くらい納品が遅くなったことがある。」などの苦情が数多く寄せられており、そうした苦情を解消すべく、われわれ企画課はQC活動に取り組んだわけです。

検討を重ねる中でひらめいたのは、クロネコヤマト・佐川急便などの配送会社でよく使われている「荷物のお問合せシステム」でした。ここからヒントを得て、われわれは、各部署から請求された物品等が今のような状況にあるのかを文書でお知らせすることにしました。

平成26年6月2日

請求物品状況 定期便

1階病棟 様 企画課

ご依頼いただきました請求物品につきまして、状況を報告します。
 ご不明な点につきましては、各部署までご連絡ください。（物品ごとの問い合わせ先を記載しております）
 『1ヶ月毎の請求品別による月請求表分』について記載しておりますが、リスト作成時の都合により、平成26年5月26日以降に請求されたものについては記載されておられませんので申し添えます。ご了承ください。
 また定期請求表分については記載されておられません。（毎月月初頭にいただく定期請求品発注書分は毎月月初めに納品します）

品番	発注日付	品名	メーカー	規格	数量	単位	納注日	状況	問い合わせ先
137	H26.05.19	CDボックス	マウスレーサー	CDK-2F	1	個	H26.05.19	納品済	6317
138	H26.05.19	安楽褥褥交換用パッド	アズル	品番0-3268-02	10	枚	H26.05.19	納品済	6317
139	H26.05.19	クランプボード		CB-200-BU 青	30	枚	H26.05.19	納品済	6317
140	H26.05.19	マジックレド		青色 20mm×3m	5	ヤ	H26.05.19	納品済	6317
142	H26.05.19	イヤホンマイク		HS-0000	3	ヤ	H26.05.19	納品済	6317
143	H26.05.19	写真用紙 光沢		7271 4x1009mm	100	枚	H26.05.19	納品済	6317
144	H26.05.19	アルコールペーパー		20ml	3	ヤ	H26.05.19	納品済	6317
145	H26.05.19	ガーゼパズル		20ml	5	ヤ	H26.05.19	発注済(納期A)	6317
215	H26.05.28	レジ袋 平造り 30号		100枚入り	30	袋	H26.05.28	納品済	6317

■納期のご案内■ 本誌を配用した日から完了日までの期間となります。
 納期A：1週間以内
 納期B：1週間～1ヵ月
 納期C：1ヵ月～1ヶ月以上

請求品がリストから漏れている場合、大変お手数ですが内容2314(山本)までご連絡ください。

各部署から出てきた請求一覧に「見積中」「納品済」「発注済（納期A）」などの現状を追加して、上記のような定期便を月末締めの上、翌月月初に配布する活動を平成25年6月から現在まで継続しています。



請求物品状況定期便の配布

「請求物品状況定期便」開始から1年が経過した時点で、アンケート調査をおこなったところ3割の職場から『請求した物品の納期を企画課に尋ねる回数が減った』、また約半数の職場から『請求した物品が以前より早く届くようになった』という回答をいただきました。

その他の意見として「納期や過去に請求した物品を確認したいときに、請求物品状況定期便が手元にあると確認しやすい。」「請求伝票がきちんと管理されていると感じる。」「請求した物品や修理依頼した事がどうなったかよくわかってありがたい。」などの声が寄せられており、概ね各部署から高評価をいただいています。

今後もよりよい発注管理体制を構築していくことは勿論、QC活動を継続していきたいと考えています。



国立病院機構総合医学会での発表

欧州呼吸器学会国際学術集会2014に参加して

呼吸器内科医師 多田 光 宏

2014年9月にドイツのミュンヘンで開催されたERS INTERNATIONAL CONGRESS 2014（欧州呼吸器学会国際学術集会）に参加しましたので報告いたします。

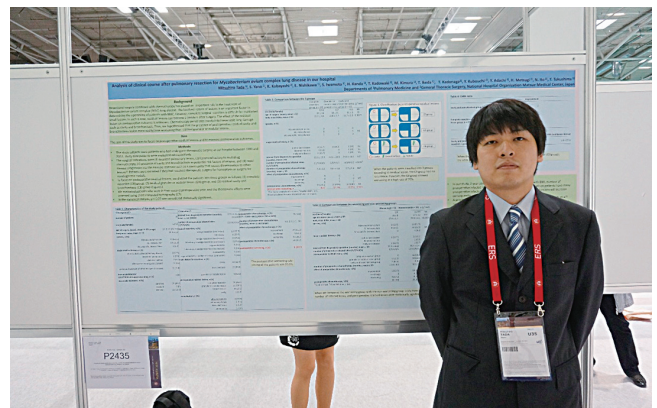
ミュンヘンはドイツの南東に位置するドイツ第3の都市で、有名なサッカークラブ、バイエルン・ミュンヘンの本拠地があります。意外にも緯度が北海道よりも高いため、渡航中はコートが必要なほど肌寒い日もありました。

さて、私のポスター発表の内容は「肺MAC（マック）症手術患者における術後悪化因子の検討」でした。肺MAC症は難治性の肺感染症で、一定の基準を満たす患者さんでは手術適応になる場合があります。今回、当院過去15年間の症例について、手術後に悪化する因子を解析した内容を発表しました。

学会の合間にはミュンヘン及びその周辺地域も観光し、ナチスドイツ時代に建造されたダッハウ収容所に行ってきました。ダッハウ収容所はアウシュビッツ収容所と並んで、政治犯やユダヤ人を収容した主要な収容所のひとつです。現在は当時の強制労働、人体実験、虐殺の写真などが展示され多数の観光客が訪れています。日本は戦争加害国であり敗戦国で、ドイツと同じ境遇なのですが、このような施設は日本には無いように思います。学会場では、ドイツ人は質問をする際に、手を開かず人差し指をたてて挙手をします。これはヒトラーの敬礼を連想させないように、他国への配慮であると聞いたことがあります。様々な意見、考えがあると思いますが日本も他国への配慮がまだまだ必要なのかもしれない。

最後にドイツはビールの国です。最も美味しかったのがヴァイスビールで、濁りがあり、味は苦味が無く、フルーティな甘味が特徴です。ドイツに行くことがあればぜひ御賞味を。

さて今回の研究・発表通じて貴重な経験をさせていただきました。ご指導・ご協力頂きました先生方、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。



松江医療センターふれあいまつりを開催して

健康フェスタ部門

「松江医療センターふれあいまつり2014」を開催しました。

庶務班長 岩井 睦司

平成26年11月8日(土)「松江医療センターふれあいまつり2014」を開催しました。

今年、これまで行ってきました、健康フェスタと市民公開講演会ときらめき祭の3つの企画を一緒にまとめて、“ふれあいまつり”と名づけて、地域住民の皆様にご健康・医療・医学へ関心を持っていただくとともに、松江医療センターをより身近に感じていただくことを目的として、メインテーマを「地域とともに明るい未来へ」とし、平成26年2月にオープンした新外来管理診療棟の1階～3階を会場、駐車場を屋台広場として開催しました。

お陰様で、来場者数約600名と来場者も最後まで途切れることもなく大盛況と多くの皆さんに当院を知っていただき、職員と親しくふれあい、いろいろのイベントをご家族と一緒に楽しんで頂けたと思います。

10時、徳島院長の開会挨拶で幕を開けた「松江医療センターふれあいまつり2014」は、かわいらしいベレー帽とマーチングバンドの衣装の地域保育所の園児による鼓隊演奏、歌にはじまり会場を盛り上げていただきました。

健康フェスタ部門の催し物として、体験コーナー、健康相談コーナー、病院見学ツアー、展示コーナーを実施し、体験コーナーでも美肌体験については、150名、リハビリ体験では40名、心肺蘇生は35名、健康相談コーナーについては、栄養相談は60名と来場者に楽しんでいただけたと思います。



きらめき祭部門

松江医療センターふれあいまつりを開催して～きらめき祭部門～

療育指導室長 塩治 悦子

きらめき祭部門は、1階・2階・3階病棟の患者さんと職員と一緒に各種イベントが催されるステージコーナー、患者さんが療育活動やリハビリテーションで作成された作品を見ていただく展示・即売コーナー、「お祭りと言えば…」お楽しみのたこ焼きやヨーヨーすくいなどの模擬店コーナーについて企画しました。

当日に向けて、コンサートの練習や入院患者さん約160名で



ん約160名でモザイク画を作成するなど皆で準備を進めていき、本番を迎えました。

ふれあいまつりの当日は、たくさんの方々に来場していただきました。特にステージコーナーを開催した療育訓練室は患者さんと職員の合同コンサートやしまねっこステージのときには、廊下から催しを見る方もおられるほどの大盛況となりました。

お祭りの賑やかな雰囲気の中で、きらめき祭部門は参加された方々の笑顔がきらめいた秋の1日となりました。

市民公開講座部門

ふれあいまつり2014 市民公開講演会の講師をつとめて

3階病棟 看護師 宍道 洋五

市民公開講演会にて『認定看護師にできること』と題して、摂食嚥下障害看護認定看護師の立場から講演をさせていただきました。今回の講演を通じて、当院の認定看護師がどのような役割を果たしているのか、市民のみなさまに知って頂く良い機会になったと思います。参加された市民のみなさまと、スプーン1本でできる「かんたんバナナペースト作り」と「嚥下体操」を一緒に行いました。「食べる」に関わるワンポイントスキルを「ふれあいまつり」の一環として、なごやかに楽しく実践できたように思います。人とのふれあいを通じて、一緒に楽しく専門的な視点から実践を共有すること、これも認定看護師の果たせる役割の一つだと感じました。認定看護師として研鑽を重ね、院内外を問わず、広く地域に貢献できるよう努めて参りたいと思います。

第8回地域医療連携交流会を行いました

医療社会事業専門員 松本 昌広



明けましておめでとうございます。

平成26年10月9日に37名の地域の先生方にご出席を頂き地域医療連携交流会を行いました。今回は、交流会に先立ち肺疾患懇話会を開催し、呼吸器内科の岩本医師より「腫瘍性気道狭窄に対する気道インターベンション」と題して講演を行い好評でした。

交流会では、先ず当院院長より、①地域医療への貢献と連携、②呼吸器救急医療体制の強化、③高度医療に対応した最新システムの導入、④患者さんには優しく、また職員には働きやすい病院づくり、⑤政策医療の堅持と推進、の以上5つのコンセプトを示しこれに向かって職員一丸となって邁進するという挨拶がありました。

交流会では、島根県医師会会長 小村明弘先生から、呼吸器疾患では専門病院として一歩抜きんでた病院であると認識しており、地域の医師にとっても本当に信頼できる、有り難い病院であるとのお言葉を賜りました。

松江市医師会会長 野津立秋先生から、2014年と2025年の松江市の死亡者数を比較すると増えると考えられる、一方、松江の医師会への入会数を今年と2025年を比較すると減るといふ風に推計される。医療機関の医師の構成をみると60歳代が45.5%、70歳代が35.5%であり、在宅の患者さんを松江市医師会会員で診る事が出来るだろうか



と非常に危惧している。松江医療センターの常勤の医師とこれからの松江が医療を一緒にどうするかという事を考えるためにも是非未入会の医師へ医師会に入会することをお願いします、とお言葉を賜りました。

お食事、ご歓談を頂き、当院の呼吸器内科・外科、神経内科、小児科の全ての医師が出席し、各科の紹介を行い、当直の麻酔科の医師からは先生方へ手紙でのご挨拶を行いました。

清水眼科 清水正紀先生、きたに内科クリニック 貴谷光先生、伊藤医院 伊藤健一先生、伊藤皮膚科クリニック 伊藤充広先生からも誤嚥性肺炎、肺がん、これまでの当院との関わりや新病棟が完成した今後についてなどご期待とご要望の声を賜りました。

以上、交流会の概要でした。先生方にご参加頂き有難うございました。本年も地域医療の貢献と連携を使命として努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



市立第四中学校職場体験を終えて 3階病棟 副看護師長 川谷みのり

平成26年9月24～25日の2日間、松江市立第四中学校2年生4名の職場体験が行われました。私たちは日頃新人看護師とともに仕事をしていますが、多くは20歳代前半です。中学生にどのように関われば、医療の現場に関心を持ち、看護師になって松江医療センターに就職したいと思ってくれないだろうか、ちょっと邪な教育ニードと学習ニードを考えてしまいました。中学生が「看護師の仕事は大変だということしか思っていなかったけど、患者さんにやさしく話をしている様子をみてすごいなと思いました。」と感想を述べてくれました。

当院での職場体験の2日間を終え、晴れやかな表情で元気に挨拶をして帰る様子から、中学生たちが松江医療センターに、良い印象を持ってくれたのではないかと感じました。

来年もまた職場体験で多くの中学生を迎える日を心待ちにしたいと思います。

健幸スマイル教室好評開催中です 看護部広報委員会 副委員長 2階病棟 副看護師長 柳浦京子

看護部広報委員会では、入院患者さんや外来患者さんとそのご家族に、健康で幸せな毎日を送っていただき、笑顔で生活していただけることを願い、毎月第3月曜日に「健幸スマイル教室」を開催しています。3月までの予定をお知らせします。興味のある方はぜひご参加をお願い致します。

日時：毎月第3月曜日 15時～15時30分 場所：5階病棟 研修室

日 程	2月16日	3月16日
テ ー マ	インフルエンザ対策	嚥下について
講 師	看護師	言語聴覚士



「安心しておいしく食べるために」についてのお話

健幸スマイル教室終了後、ダイジェスト版と次回のご案内を総合案内のカウンターに置いておりますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

☆メリークリスマス☆

看護部長 武海 榮

早いもので、当院に転勤して来て8か月が経ちました。4月に新外来管理診療棟を一目見た時、吹き抜けの明るさと音響の素晴らしさに心を奪われ、ここでサマーコンサートを開くこととクリスマスツリーを飾ることを心に決めていました。

8月に開催したサマーコンサートも大成功で、多くの患者さんに喜んでいただきました。此の度も幹部職員の賛同が得られ、高さ3mのとてもゴージャスなクリスマスツリーを飾ることができました。部署を越えて集まった有志で飾り付けをし、嘉数企画課長が日曜大工で足元の囲いも作ってくれました。12月9日の徳島院長の手による点灯式では、外来患者さんと職員でカウントダウンをし、一体感を味わうことができました。5色500球のLEDの電飾も見事で、2週間あまり患者さんの目を楽しませてくれました。

来年は、外装工事も終わりますので、クリスマスになったら玄関もきれいに飾りつけたいと考えています。その前に、次は外来ホールにお雛様を飾って、外来の待ち時間が少しでも短く感じられればと考えていますが、どこかにお雛様は眠っていませんか。自分のお雛様をみんなに自慢したいと思われる方がいらっしゃいましたら、ぜひご一報下さい。



療育指導室行事

1階病棟 院内行事「忘年会」

療育指導室 児童指導員 湯浅 堅司

平成26年12月19日（金）一階病棟で「忘年会」を行いました。

患者さんと事前に相談し、今回の行事内容を決めました。近年の喫食を伴う行事については給食を欠食にしましたが、今回は是非、栄養管理室にも協力を頂きたいと希望が挙がり、希望に沿った給食メニューを提供してもらえるよう、栄養管理室長へ患者さんから猛アピールを行いました。

決まった内容はこちらです。昼食は栄養管理室プレゼンツ「ほっこり鍋！」&「高級出前寿司！」。ティータイムはあま〜いスイーツや挽き立てコーヒーを楽しみながら、広い会場を貸し切って年忘れ！大カラオケ大会☆★美味しいものを食べて、飲んで、イケメン介助員、イケ女な看護師、女装好きな〇〇さんとみんなでワイワイデュエットなどを大熱唱し、無事に行事を終えました♪

今回多くのご協力をいただきました家族会の皆さん、栄養管理室をはじめ他部署の皆さん、本当にありがとうございました！

「忘年会」が終わり、私自身ふと一年間を思い返しました。「初めての転勤、不安と緊張のなかでの新しい職場、宿舍生活、ドキドキの雪道運転…その他ご想像にお任せします？」本当にさまざまな初体験をし、刺激的な1年でありました。

これから、患者さんにとっても刺激的な1年1年を送ってもらえるように、たくさんの『楽しみ』を提供していきたいと思います。



療育指導室行事

12月18日に、2階・3階病棟クリスマス会を行いました

療育指導室 保育士 高橋 朋子・湯浅 恵子

2階病棟では、オープニングのビデオでスタート。司会は患者さんによる日本エレキテル連合の朱美ちゃんと細貝さんです。前半はクイズやメロディーベルの演奏、患者さんと職員のショートコント等の楽しい出し物。後半はサンタさんの登場でクリスマスプレゼントを一人一人に渡して頂きました。今年はサンタさん2人とトナカイさん2頭で来てくださり、お部屋もデイルームもプレゼントを手に笑顔であふれていました。

3階病棟は、ミュージックグループKTTさんを招いて、～クリスマスソングでレッツゴー～をテーマにクリスマスコンサートを行いました。KTTさんの素敵な演奏と歌に会場の皆さんはおおいに盛り上がりました。続いてうさぎさん、トナカイさん、サンタさんも会場のみんまも一緒に「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、サンタさんからプレゼントを頂きました。外はホワイトクリスマスでしたが楽しい行事となりました。



電動車椅子サッカーチーム「松江コンビック」が 松江農林高校の収穫祭に参加しました

療育指導室長 塩 冶 悦 子

松江コンビックは、平成18年に当院の入院・在宅の患者さんで結成された電動車椅子サッカーチームです。毎週木曜日に練習し、県外への遠征を行うなど積極的に活動しています。

発当初より島根県立松江農林高校のサッカー部の皆さんとは交流を重ねており、練習を一緒にしたり、試合の際に審判をしてもらうなどの支援をしていただけてきました。

昨年の11月23日、松江農林高校の文化祭である「収穫祭」が行われました。その中でサッカー部の皆さんが松江コンビックのチーム紹介や代表選手によるデモンストレーションを行うコーナーを設けることを計画してくださいました。

当日は、手作りのチームの紹介ポスターが貼られた松江農林高校の体育館で、たくさんの来場者を前に選手がパスやシュートなどの技術を披露したり、学生さんが競技の紹介をしてくださるなどの企画があり、電動車椅子サッカー及び松江コンビックを広く知っていただくいい機会になりました。

今後も活動の場を広げ、更に地域との交流を深めていきたいと思っています。



国立病院総合医学会「ベスト講演賞」をいただきました

理学療法室 理学療法士 加藤 保

当院では人工呼吸器を装着している患者さんに対し、多職種でサポートするRST（呼吸ケアサポートチーム）の活動を行っています。この度平成26年11月14日・15日にパシフィコ横浜で第68回国立病院総合医学会が開催され、「RSTの一員として理学療法士に求められるもの」という演題で、RST活動に理学療法士が参加することによるメリットと今後の課題について事例を通してポスター発表をさせて頂きました。国立病院学会での発表は初めてで、一緒に参加したスタッフに聞くと「原稿を見ながら発表なんてカッコ悪いですよ。」と言われました。そのため前日の宿泊先で外野からの騒音・誘惑にも負けず、原稿を暗記し、いざ発表へ。発表前は非常に緊張していましたが、発表後はなんとも清々しいこと。しかし周りの演者を見てみると原稿見ながら発表しているじゃないですか！ヤラレタ…（笑）無事に発表も終わりなんと、ベストポスター賞までいただくことが出来ました。感無量でした。これも門脇先生を始めとするRSTメンバーの支えあってのことだと思っています。最後に今後も当院からRST活動を通して様々な情報を発信していけたらと思っています。



第68回 国立病院総合医学会での論文発表を振り返って

3階病棟 療養介助員 板垣 潤

平成26年11月15日、横浜市で行われた国立病院総合医学会でポスター発表を行いました。昨年の総合医学会にも参加しましたが、初心者である自分が参加しても意味があるのかと思いました。しかし、その経験が今回の発表で大いに役に立ちました。会場の雰囲気や発表者の態度などを見ていたので、発表の緊張も緩和されたと思います。今回「興奮のある患者への対応」について発表しましたが、予想外の質問がありました。「オムツでの排便による興奮は記録になかったが、排便に関する記録はないのか。」というものでした。私は排便による興奮は起きないと考えており、調査項目にも入れていませんでした。質問されたことにより、研究の視点が広がりました。今回の経験を今後の仕事に生かしていきたいと思えます。

各診療科・各部門職場紹介

小児科

小児科では小児期発症の神経筋疾患の診療を行っています。

特に、重症心身障害・筋ジストロフィーの専門的医療を中心に、てんかんや摂食機能障害、発達遅延、発達障害等の診療・相談にも対応しています。

重症心身障害児の短期入所やデイケア、筋ジストロフィーの検査入院も行っておりますので、お気軽にご相談ください。



中村医師 齋田医長 久保田医長

麻酔科

昨年の7月から麻酔科ができました。皆様よろしくお願ひ
します。

麻酔科では、主に呼吸器外科の手術や 呼吸器内科の気管
支鏡治療の麻酔、ハイリスク症例の全身管理などを行って
います。

また外来では、主に腰痛などの痛みの治療を行っています。
慢性の痛みを完全に無くすことはできませんが、少しでも楽
に生活していただけるよう、薬物療法や神経ブロックなどで
痛みの緩和を目指しています。

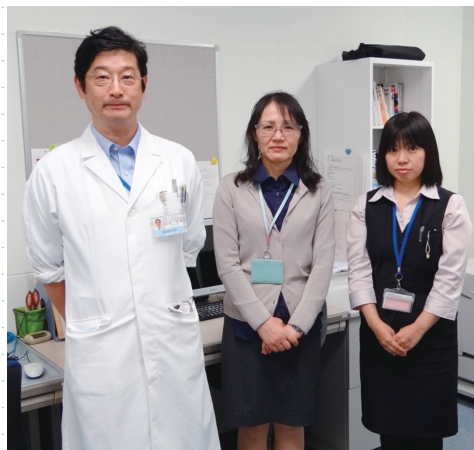
麻酔に関して知りたい方や、肩や腰などに痛みがある方は、
どうぞお気軽にご相談ください。



西村麻酔科医師

臨床研究部

臨床研究部は、呼吸器医療研究室、神経・筋医
療研究室、重症心身障害医療研究室、病理学研究
室、治験管理室の5つの研究室から構成されてい
ます。今後も、諸先輩方のご指導を賜りながら、
院内の独自研究とともに院外研究機関や医療機関
との共同研究などにより研究業績をあげていき
たいと考えております。



足立臨床研究部長 田中心理療法士 小谷事務助手

しじみ会 (十月中秋号 十一月晩秋号 十二月冬号) リハビリテーション科 作業療法士

・初霜や 落ち葉に降りて 手を摩り
「となりの住人」

・秋深し 地面いっぱい イチョウの黄
「小次郎さん」

・金木犀 香り漂わせ 垣根越し
「永島さん」

・白冠に 紅黄の衣 伯耆富士
「N」さん

・花桔梗 縁起担いで 床の間に
「京の静さん」

・天気予報 雪だるま見て 冬支度
「白イルカさん」

・久しぶり 友と楽しむ コンサート 魅せる聴かせる EXILE一族
「愛佳さん」

・困ったなあ コールもスト するらしい
「ふた葉さん」

・孫が増え 年だま用意 妻笑顔
「カラス貝さん」

・目にとまる 風に揺れてる 吊し柿
「三度笠さん」

●●● 開業医紹介コーナー ●●●

病病・病診連携 No.10

中村内科循環器クリニック

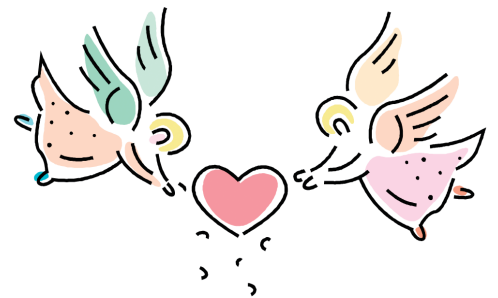


2000年8月に50歳直前にして慌ただしく計画性も無く開業いたしました。駐車場も狭くインフルエンザワクチンの接種時期には混雑してご迷惑をおかけしています。当時調剤薬局が隣に出来る予定でしたが市街化調整区域とのことで断念し未だに院内処方をしています。ところが、この院内処方悪いことばかりではなく患者さまとナースとのコミュニケーションがしっかりと取れ、時には診察時の薬の出し忘れ（これが最近多いんです）のチェックに大いに役立っています。

患者さまはやはり循環器系の方を多く診させていただいております。高血圧症、狭心症、心筋梗塞症、弁膜症、不整脈、心筋症などで、中でもワーファリンを服用されている方が多くINRの検査の頻度は多いようです。当然ですが糖質代謝異常、脂質代謝異常の方も多く診させていただいております。余談な話ですが最近マスコミでコレステロールは下げるものではないと言い切る医者が沢山いるようで時に高脂血症薬はいりませんと言われ面食らう事があります。心筋梗塞症の既往のある人でLDL-Cが200有ればやはり下げねばと思うんですが。

胸部レントゲン撮影はデジタル化されてからは画質が良くなり、何とか肺がんの早期発見をと心がけています。医療センターにヘリカルCTを依頼することが多く迅速に対応していただいております。あとは睡眠時無呼吸症候群のPSG簡易検査、禁煙外来なども行っています。

ご高齢の方が多く開業医の意向と病院の意向が一致することは難しいとは思いますが、病診連携の風通しを良くして頂きますようお願い申し上げます。



中村院長先生とスタッフのみなさま

中村内科循環器クリニック

院長 中村 展招

〒690-0823

松江市西川津町398-51

電話 0852-20-7711

休診日 日曜・祝祭日 木・土午後

地域医療連携室だより 第19号

2015年1月



1. 新年のご挨拶

副院長・地域医療連携室長

矢野 修一



新年あけましておめでとうございます。

連携医療機関の諸先生方には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より皆様方には地域医療連携室が大変お世話になり、この場を借りてまずは、感謝申し上げます。

病院完結型から地域完結型医療の時代となり、ますます病病連携、病診連携が必要になっていますが、今後とも呼吸器病センターの名に恥じぬよう、あらゆる呼吸器疾患に対応していく所存です。そして、患者様の紹介や逆紹介、医療機器の共同利用、医療情報の公開・交換などをさらに活発に推進してまいりたいと考えています。

今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

《地域医療連携室より》

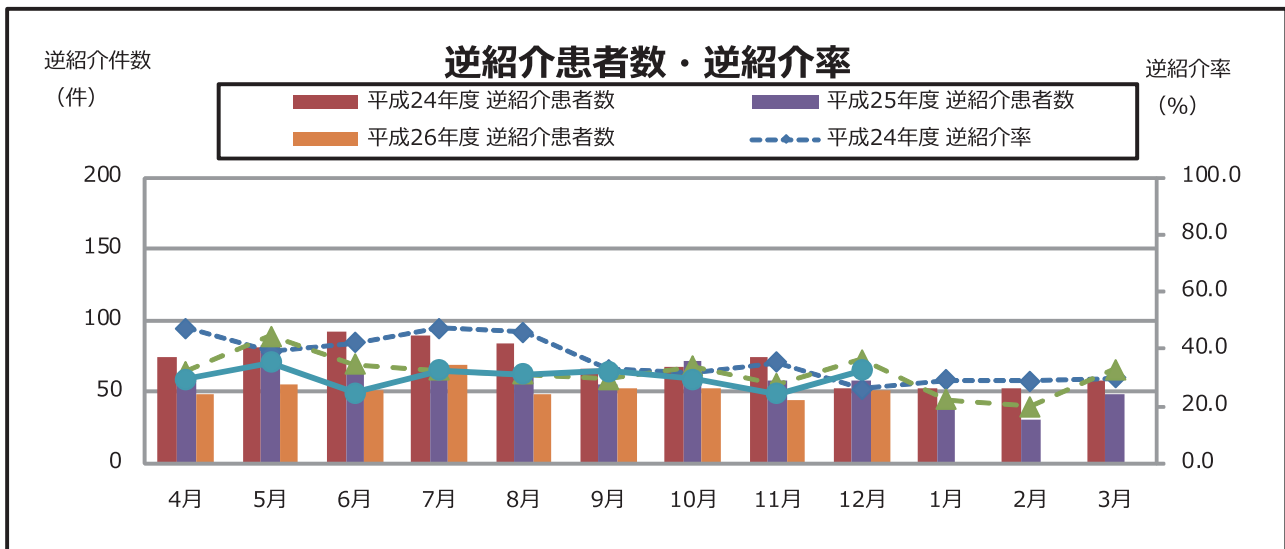
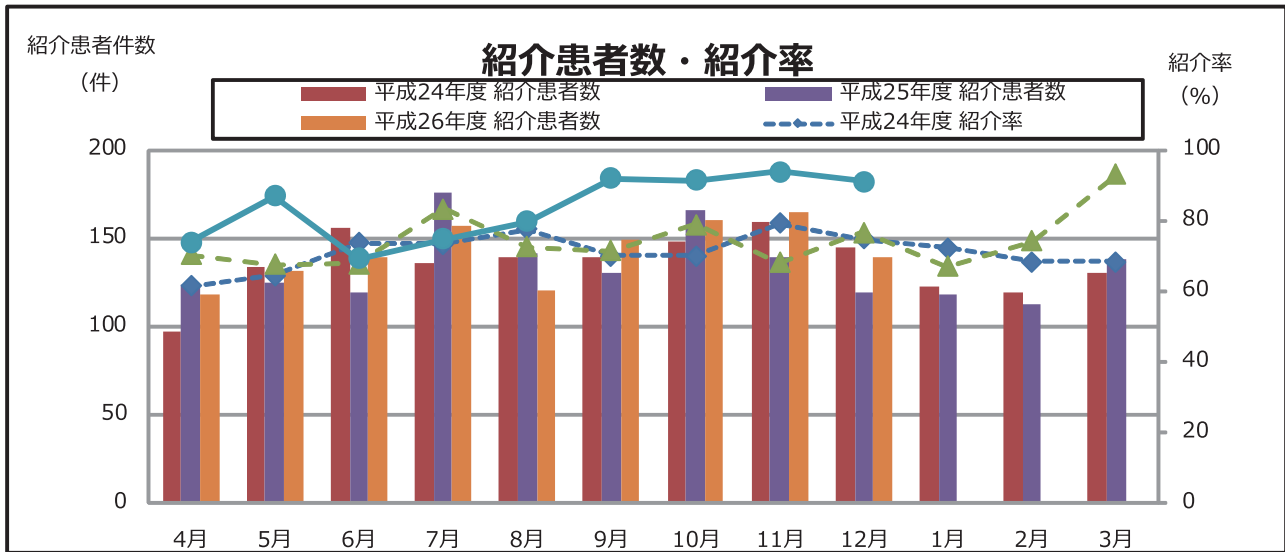
新年あけましておめでとうございます。

旧年中は当院の地域医療連携に格別にご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。地域医療連携室として、本年も地域の皆様のご期待に応えられるよう職員一丸となって務めてまいります。本年もなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室 スタッフ一同



2. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



3. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	64人	57人	55人	68人	48人	44人	57人	54人	44人			
退院先												
在宅	17人	12人	15人	8人	14人	11人	19人	15人	16人			
施設	0人	2人	0人	3人	1人	1人	1人	1人	0人			
病院	2人	2人	2人	8人	6人	1人	1人	1人	2人			

